【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第１区分
【発行日】平成20年5月22日(2008.5.22)

【公開番号】特開2006-282487(P2006-282487A)
【公開日】平成18年10月19日(2006.10.19)
【年通号数】公開・登録公報2006-041
【出願番号】特願2005-108293(P2005-108293)
【国際特許分類】
Ｃ０１Ｂ　31/00　　(2006.01)
Ｂ０１Ｊ　20/04　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０１Ｂ　31/00
Ｂ０１Ｊ　20/04　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成20年4月4日(2008.4.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
金属フッ化物を、フッ化カルボニル及びフッ素から成る群から選ばれる少なくとも１種を含む前処理ガスと接触させることにより得られる金属フッ化物脱酸剤。
【請求項２】
金属フッ化物を、不活性ガス雰囲気下で加熱し、その後フッ化カルボニル及びフッ素から成る群から選ばれる少なくとも１種を含む前処理ガスと接触させることにより得られる金属フッ化物脱酸剤。
【請求項３】
金属フッ化物が、アルカリ金属フッ化物及びアルカリ土類金属フッ化物から成る群から選ばれる少なくとも１種である、請求項１又は２に記載の金属フッ化物脱酸剤。
【請求項４】
金属フッ化物を、フッ化カルボニル及びフッ素から成る群から選ばれる少なくとも１種を含む前処理ガスと接触させる工程を含む請求項１～３のいずれかに記載の金属フッ化物脱酸剤の製造方法。
【請求項５】
金属フッ化物を、不活性ガス雰囲気下で加熱し、その後フッ化カルボニル及びフッ素から成る群から選ばれる少なくとも１種を含む前処理ガスと接触させる工程を含む請求項１～３のいずれかに記載の金属フッ化物脱酸剤の製造方法。
【請求項６】
前処理ガスが、フッ化カルボニルを１０～１００ｖｏｌ．％含む前処理ガスである、請求項４又は５に記載の金属フッ化物脱酸剤の製造方法。
【請求項７】
前処理ガスが、フッ素を１０～１００ｖｏｌ．％含む前処理ガスである、請求項４又は５に記載の金属フッ化物脱酸剤の製造方法。
【請求項８】
前処理ガスが、不活性ガスを含む前処理ガスである、請求項４又は５に記載の金属フッ化物脱酸剤の製造方法。

【請求項９】
金属フッ化物を、不活性ガス雰囲気下で１００～４００℃に加熱し、その後フッ化カルボニル及びフッ素から成る群から選ばれる少なくとも１種を含む前処理ガスと接触させる工程を含む請求項１～３のいずれかに記載の金属フッ化物脱酸剤の製造方法。
【請求項１０】
請求項１～３のいずれかに記載の金属フッ化物脱酸剤と、０．００１ｖｏｌ．％以上０．５ｖｏｌ．％未満のフッ化水素を含む被処理ガスとを接触させることにより得られる、フッ化水素の含有量が０．１～５０ｖｏｌ．ｐｐｍのガス。
【請求項１１】
被処理ガスがフッ化カルボニルである、請求項１０に記載のフッ化水素の含有量が０．１～５０ｖｏｌ．ｐｐｍのガス。
【請求項１２】
請求項１～３のいずれかに記載の金属フッ化物脱酸剤と、０．００１ｖｏｌ．％以上０．５ｖｏｌ．％未満のフッ化水素を含む被処理ガスとを接触させることにより、被処理ガス中のフッ化水素の含有量を０．１～５０ｖｏｌ．ｐｐｍとする、フッ化水素の含有量が低減されたガスの製造方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００２】
本発明の一つは、フッ化水素除去性能に優れた金属フッ化物脱酸剤及びその製造方法に関する。
また、本発明の他の一つは、その金属フッ化物脱酸剤とフッ化水素を含むガスとを接触させることにより得られる、フッ化水素の含有量が低減されたガス、並びにそのガスの製造方法に関する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
本発明の目的は、フッ化水素除去性能に優れた金属フッ化物脱酸剤及びその製造方法を提供することである。
本発明の目的はまた、フッ化水素が非常に低い濃度にまで低減されたガス、並びにその製造方法を提供すること、特に、フッ化カルボニルガスからフッ化水素を簡便な手段により効率良く除去してフッ化水素が非常に低い濃度にまで低減されたフッ化カルボニルガスを製造する方法を提供することである。